



地方創生
with Airbnb



北海道

清水町

課題の整理

- 町内人口が減少
- 遊休不動産の増加
- 地域経済の衰退
- 宿泊施設が少ない
- 移住者向け物件が少ない

課題解決に向かうには？

町の経済活性につながる長期滞在観光や移住の促進に向けて、行政所有物件をはじめとした遊休不動産を民泊に置き換えることによって、町全体がホテル機能を果たし、新たな人のつながりと流れが生まれる

町に変化を起こす Airbnb掲載の移住体験住宅

日本で初の試みとして、自治体が運営する複数の移住体験住宅を Airbnb でリスティング登録している北海道清水町。パートナー企業である良品計画と Airbnb が共同プロデュースした空間コーディネートの効果もあり、移住や長期滞在の潜在人流にも期待。次のフェーズが始まっている。

清水町とエアビーが包括連携協定を結んで9カ月余り。長期滞在型観光や移住を促進するため、公営住宅や遊休不動産を活用する「まちなまるごとホテル」構想の進展に向けて着々と舵が切られている。行政運営の移住体験住宅をエアビーに掲載するのは日本で初の事例。'22年7月〜'23年3月の間で実に46組495泊を受け入れた。加えて、20〜30代といった移住予備世代や長期滞在の可能性が高い外国人から公営リスティングへの問い合わせが増加傾向だという。一因として、彼らに人気の無印良品の製品でコーディネートされた住空間が挙げられる。良品計画とエアビーによる宿泊施設の共同プロデュース

町営の移住体験住宅、エアビーで価値向上

スガ実を結んだかつこうだ。9カ月前までゼロだったリスティングは、現在13物件。「民泊を通して清水町ファンを増やしていくという思いへの共感が登録数を増やしています（商工観光課・前田氏）」町長や町職員の自宅を民泊活用するという過去に前例のない旗振りは、いま町民の心をじわじわと捉えつつある。



Airbnbのウェブサイトを検索して宿泊されたゲストのみなさんは「大満足」との評価。チェックインの手続きは町役場の担当者が直接行い、まちの自然、食、人柄などを紹介

清水町 商工観光課

前田 真氏

'89年清水町役場入庁。企画課長を経て'21年より現職。全国初となる自治体職員の副業として民泊に取り組むなど、日夜、観光や移住施策に動しむ。モットーは公私一体



清水町 学びと未来

学んだこと

ありきたりでない移住体験住宅が好まれる

今回のリノベのような“移住体験住宅らしくない”きれいな施設での生活を好む人が圧倒的に多いことがわかった。加えて、ゲストに寄り添い、コミュニケーションを取ることが喜ばれた。町の自然、食、人柄には全員が満足されていた

未来へ向けて

滞在型旅行や二拠点居住の受け入れを推進

ポストコロナに向けて、ワーケーションなど仕事と休暇を組み合わせた中〜長期滞在型の旅行や、リモートワークなどに対応した二拠点居住の受け入れを推進するため、町運営の移住体験住宅を現在の5軒から8軒へ増やしていく見込みだ